

2.2. 大面積伐採地における簡易出水調節法

1. 試験担当者

本郷防災部理水研究室長 杉 山 利 治 ほか

宝川試験地主任 永 見 郷 康 ほか

2. 試験目的

溪間工作物による出水調節効果を検討し、奥地水源地带に適用可能な出水調節工法を開発する。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

- (1) 前橋営林局水上営林署宝川国有林内の初沢流域に試験流域を選定し、透水性出水調節工（鋼材を使用）を設置した。出水調節工の透水部分の間隙率は39%、最大貯水量は677 m^3 である。
- (2) 施工後の流域降水量観測、施工地点（水位計新設）および初沢量水堰堤における水位観測を行なった。
- (3) 施工時における貯水池および上流部溪床の堆砂状況・粒径調査を行なった。
- (4) 理水試験地資料を用いて、施工前における降水量と流出量の関係の検討を開始した。

4. 昭和45年度の試験計画

- (1) 流域降水量および積雪水量調査、初沢基地における気象観測、既設2、新設1地点における水位および流速測定を行なう。
- (2) 定時観測日および出水後に施工地点における堆砂状況・貯水容量の変化を測定する。また、主要な出水後には上流部溪床の変化状態も測定する。
- (3) 施工前期間（既存資料）および施工後期間（上記資料）における降水量と流出量の関係を解析し、本工程の流出調節効果を検討する。